

茨城県立竜ヶ崎第二高等学校自己評価表（平成22年度）

めざす学校像	・文武両道の精神の基に、生徒一人一人が確かな学力を身につけ、希望する進路を実現する学校。 ・規範意識と品性を備え、豊かな心を持った人間を育成する学校。 ・学校・家庭・地域社会の連携協力により、地域から信頼される活力と意欲に充ちた学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史と伝統を受け継いだ落ち着いた学習環境の中で、生徒たちは明るく伸び伸びと学園生活を送っており、勉学に部活動にと成果を上げている。具体的には、徐々に大学・短大合格者が増加傾向にある。就職面でも、警視庁や地元企業へ希望者全員が採用されることができた。これもきめ細やかな進路指導の成果と考えられる。 ・部活動においては、バスケットボール部が県大会において県立高校として19年ぶりにNo.1となり、関東大会に出場した。常連強豪校に惜敗はしたが、今後に期待したい。バレーボール部は、県南大会で優勝しており、県のベスト4まであと少しである。ダンス部は、全国ドリル選手権大会に第3位となった。陸上部も県大会に入賞し、あと一步である。卓球部は、県のベスト8に今一步である。演劇部は、県南演劇祭で優良賞を受賞した。美術工芸部・音楽部・JRC部・商業部も頑張っており活動している。勉学・部活動とも前年度に勝るような成果を上げて行きたい。 ・魅力ある学科づくりをめざした商業科と人間文化科では、資格取得や各種検定試験等に力を入れた、きめ細かな指導が展開され、成果を上げつつある。今年度は、つくば市で全国産フェアが開催されるので、積極的な参加をして地域へもPRできるようにしたい。 ・全科とも定員割れを解消できた。今後も危機意識を持ち、伝統校に胡座をかくことなく「魅力ある学校」「地域に信頼される学校」づくりに教職員全員が協働して邁進して行かなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①興味関心を醸成する魅力ある授業の展開 ②学力アップを図る家庭学習の習慣化 ③基礎学力アップ（習熟度別授業・TT等） 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①挨拶の励行・マナーの向上 ②服装指導・遅刻指導等の徹底 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備と美化活動 	<ul style="list-style-type: none"> ①清掃の徹底 ②教室等の整理整頓 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気あふれる学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動部・文化部への加入率アップ ②HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ひとり一人にとって居心地の良い学校 ・生徒の希望や目標を実現できる学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談活動の充実 ②生徒への声かけ ①資格取得試験の合格率アップ ②生徒の希望や進路実現支援体制の充実 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・地域から信頼される学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動及び地域活動への積極的参加 ②地元中学校への情報提供と連携強化 	A	

教 公 民	・基礎学力の向上を図る。	・一般常識の学力をより高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につけさせる。		身につけ、就職試験に備えることが出来た。		
		・生徒の能力に応じた授業展開を行う。	B			
		・時事問題等を理解させるため、新聞やインターネットを取り入れ、社会のしくみ等を理解させる。	B			
		・自ら学び、生徒が主体的に考える授業をめざす。	B			
		・授業中の発問を増やすだけでなく、課題を課することによって、自ら学び考える力を身につけさせる。	B			
		・視聴覚教材の活用と、それに合わせた資料を作成することによって、共通事項の理解力を高めさせる。	B			
	・個に応じた進路実現を考えた授業展開をめざす。	・身近に起こっている事象を取り上げ、そこから自らの進路意識を高める授業を展開する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力が伸び悩んでいる生徒には補習等を行い、出来る限り学力をつけるための努力をした。次年度はもっと発展できるような授業内容を展開していきたい。 ・新聞などのニュースを活用することによって少しずつではあるが、ニュースを読む力が成長したように思えた。今後は、自ら進んで学習する意欲を育てていきたい。 ・進路実現に向けて公民科の一般常識力を身につけ、就職試験に備えることが出来た。 		
		・一般常識の学力をより高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につけさせる。	B			
		・基礎学力、学習意欲の向上を図る。	・平日常課外を実施し、基礎学力の定着を図る。		A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き第1学年普通科2クラスにおいて、少人数制授業の展開及び学力向上サポートプランによるT.Tでの授業を実施した。本年度は、計算問題の小テストを定期的に行い、不振者には補習を行うなど基礎学力の向上に力を注いだ。生徒の学力が年々低下していく中で、定期考査の点数は昨年度並みか若干上昇している。しかし、中には足し算引き算もままならない者がおり、今後の指導方法を検討していかなければならない。 ・平日常課外や長期休業中の進学課外は例年どおり実施できたが、一般受験者が少ない現状から少人数であった。人数を増やしていくことが今後の課題である。 ・上級学校での円滑な学習をめざして、上級学校合格者に対する継続した支援体制を検討していきたい。 ・検定試験の申込者は少ないが、やる気のある生徒達なので補習を実施しながら、引き続き教科担当からクラスへ声掛けして参加者を増やしていきたい。
			・授業ノートや課題の提出を徹底させる。			
			・長期休業中は課題を与え、平常点として評価する。			
		・発展的学習の向上を図る。	・1学年では、毎回計算小テストを実施する。		B	
・長期休業中の進学課外を実施する。						
・科目担当者との連携を密にし、指導方法を工夫する。						
・少人数制授業の充実を図る。	・数学検定試験を実施し、参加を促す。	B				
	・少ない人数での授業を展開し、生徒一人ひとりに対し極め細やかに指導する。					
	・習熟度別授業へと展開し、個々の目標達成に努める。					
	・T.Tによる授業を展開する。					
教 理 科	・基礎学力の定着と応用能力の向上を図る。	・卒業までに必要な科学的知識を身につけさせ、科学的ものの見方・考え方を習得させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年々計算力の不足している生徒が増えてきているので、化学の計算問題を解かせるのが難しい状況になってきている。補習授業などをして基礎計算力の向上を促すなどの対策が必要になってきている。 ・中学校時代に提出物を出さなくても許さ 		
		・毎時間の授業への積極的な参加を追求する。	A			
		・指導内容の精選と指導方法の工夫を図る。	A			
	・指導内容の精選と指導方法の工夫を図る。	・シラバスにより指導内容・評価基準などを明確にしておく。	A			
		・理解度を見ながら授業を進める。				
		・理解度を見ながら授業を進める。				

教		<ul style="list-style-type: none"> 様々な教材を開発して、生徒に科学への興味・関心を持たせる。 生徒実験・演示実験を行い理解を深めさせる。 			<p>れたのか、提出物を出すように何度言っても出さない生徒が増えてきているので、根気強く提出物の催促をする必要がある。</p>		
	・進路希望実現に向けた個に応じた指導の工夫を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 補習授業や反復練習を行うことで知識の定着を図る。 課題を出し、家庭学習の時間を確保させる。 	B				
	・運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わわせる。	<ul style="list-style-type: none"> 各種目、スキルテストを行わせる。 主体的かつ意欲的に授業に取り組む姿勢を育てる。 	A				
	・公正・協力・責任等の態度を育て、生涯をとおして継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。 いろいろな種目に取り組みせ、生涯スポーツを見つけさせる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム形式の授業を多く取り入れたことで、勝敗を意識することによって意欲的に授業に取り組むことができた。 グラウンド改修工事が終わるので、次年度からはグラウンドを使った授業を多く展開していきたい。 		
	・生涯をとおして自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方や健康の保持・増進について理解させる。 適切な食事、運動、休養及び睡眠など、健康的な生活習慣に必要であることを理解させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を生活の中で実践できていない生徒が多かった。次年度は興味を持って取り組める内容を考え、より実践的な指導を行なっていきたい。 		
	・芸術活動をとおして、生きる力の原動力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動をとおして、他者と協調しつつ自立的に活動できる能力を育てる。 アンサンブルの実践などを通して、コミュニケーション能力を伸ばす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 個人の能力差が大きいので、それぞれのレベルに合わせた課題が必要。設定はかなり細分化された内容になり対応が難しかったが、個々が意欲的に学習に取り組んでいた。 全員が抵抗無く読譜の力をつけられるよう今後も指導していきたい。 龍神太鼓やヴァイオリンの実習など新しい体験をとおして、興味関心の喚起につながった。来年度も継続したい。 		
	・技術の習得と芸術的感性の伸長をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 奏法や読譜技術の習得過程を通して、困難を乗り越えていく意志と集中力を育てる。 優れた作品の鑑賞や自らの演奏活動をとおして、感受性豊かな心情を育む。 	B	B			
	・創造力や価値観の確立と形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 未知の音や音楽の出会いを提供することにより、生徒自らの価値観を育む。 	A				
	科	英語	・基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力に合った授業を展開する。 課題等を出すことにより家庭学習の習慣化を図るとともに、課題の提出を徹底させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出率はかなり良くなったが、課題を出す頻度をさらに高め、家庭学習を習慣化させる。 ALT との Team-Teaching の時間を増やす。 1年次を中心に辞書指導を行い、効果的な指導ができた。さらに継続的に行っていく必要がある。 英語が苦手な生徒が進学課外を受講していた。成績優秀者課外と不振者補習を分けてそれぞれを充実させ、幅広い学力の生徒に対応していきたい。 英検課外を級ごとに分け、英語科で取りまとめて実施していきたい。
			・指導方法や学習形態の工夫を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 一斉・グループ・個別音読を通して、正しい発音や品詞の区別等を理解させ、また Team-Teaching や英語の歌等を取り入れながら、英語の楽しさを伝える。 辞書指導を継続的に行う。 	B		
・個に応じた指導を展開する。			<ul style="list-style-type: none"> 平常・長期休業中課外の実施に向けては、生徒の参加を積極的に呼びかけ、また上位層を伸ばすことにも努める。 英検受験を促し、一次・二次試験前には課外を実施する。 	B			
・基礎学力の向上を図る。			<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力に合った教材教具の開発を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・技術・生活体験等が、年々 		

教	家庭		・簡単な実技や計算等を繰り返し練習することで基礎力の定着を図る	A	A	低下しているので、基礎学力をつける1年次の指導をしっかりと行いたい。(特に被服実習・調理実習は、検定1級受験に繋がるため) ・体験学習をとおり、社会常識を身につけさせる。	
		・資格取得に努める。	・生徒が各検定に真剣・意欲的に取り組めるよう、丁寧な指導を心がけ、合格率アップを図る。	A			
		・社会体験学習の充実を図る。 介護実習 保育実習 学校家庭クラブ活動 産業教育フェア	・自分で考え行動する能力・責任感を身につけさせる。	A			
			・礼儀や丁寧な言葉遣い・挨拶・マナー等を身につけさせる。 ・奉仕作業やエコ活動をとおり、環境問題に関心をもたせる。	A			
科	商業	・基礎学力の向上を図る。	・生徒の適性にあわせ、教材・教具の工夫改善を図る。 ・授業時間を有効に使い、授業展開の工夫改善を図る。 ・放課後等の課外を積極的に実施して、学力の向上を図る。	B	B	・1年生では、簿記で習熟度別学習を初めて実施したが、習熟度の分け方等で検討が必要な部分がある。 ・課外指導の時間を確保しづらいので、思うような効果が上がらない。 ・1級取得3種目以上を2名出すことができた。しかし、全体の1級合格者は増えておらず、次年度に向けた課題である。 ・基礎学力である3級の不合格者が各科目とも去年以上に増えており、入学者の学力低下と資格取得に対する意欲のなさが見られる。学力底上げの課外も必要である。 ・商業系大学へも成績上位の生徒は進学することができたが、もう少し人数を増やすことが課題である。	
		・検定試験の合格率の向上を図る。	・検定試験の課外時間を確保し、不合格者を出さないような指導の下、合格率の向上を目指す。 ・商業科生徒の資格取得状況を一元的に管理・網羅し、効率的・効果的な指導に役立てる。	B			
		・1級資格取得者を増やす	・昨年度4年ぶりに1級3種目取得者が出たが、2年連続の取得を目指す。	A			
		・商業・経済系大学・短期大学への進学率の向上に努める。	・各種検定試験の上級資格取得による進学率を向上させるため、商経系大学の入試情報を対象者に周知させる。	B			
教	務	・授業時間の確保に努める。	・50分の授業時間を大切にする。(チャイムは教室で聞く)教室等への移動を迅速にする。 ・行事を精選することにより無駄な時間をなくす。	A	B	・授業時間確保のための休憩時間の移動が前年度と比較するとルーズになってしまった。先生方にも、チャイムは教室で聞くことを再度お願いしたい。 ・シラバスの徹底及び少人数の授業は、うまく機能し効果を上げている。 ・考查期間中の研修(特別支援研修・茶道研修・同和研修・特別支援教育研修等)も計画どおりできた。 ・新学習指導要領に関する研修も、教育課程編成の観点から次年度も続けて実施したい。 ・内規集の見直し等はできたが、印刷して配付までできていないので、次年度までには製本して配付の形を取りたい。 ・中学校側へのPRについては、積極的に	
		・教育内容の質的向上を目指す。	・シラバスを作成し配布することにより学習意欲の向上に努める。 ・TT及び少人数授業の導入による基礎学力アップを図る。 ・新学習指導要領の完全実施に向けて研修する。	A			
		・校内研修会の充実に努める。	・定期考査中に教職員研修会を計画する。 ・各研修の報告会を実施し情報の共有化を図る。	A			
		・校内諸データの整理及び活用を図る。	・学校全体のデータの管理・処理を行う。 ・成績処理の効率化を図る。 ・内規集を新しく配付する。 ・データの有効利用を行う。	B			
			・PR活動を充実させる。	・中学校訪問をとおりしてPRを強化する。 ・学校案内及びホームページの充実に努める。			B

		<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な学校説明会，体験入学等を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 取り組んできた。さらに来年度は活性化したい。 学校案内の部数がぎりぎりになってしまい，来年度は増刷したいと思う。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年との連携を強め，定期的「服装頭髪指導」に加え，平時においても化粧・頭髪等の指導を行い，より良い生活習慣の定着を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内での生徒の生活状況はよくなってきている。今後の課題としては校外での生活状況（登下校中の様子）を改善していくことである。このためには保護者の協力を得ることが大切であり，積極的に校内規則や生徒の現状を保護者に説明する機会を作る努力が必要である。 また，頭髪服装等で度重なる違反者に対しては保護者に来校して頂き，直接協力を求めることも必要である。 「遅刻カード」や「ケータイ指導」等，継続して実施してきた指導はそれなりに成果を上げているが，そろそろ新しい取り組みをする必要があると思える。 地域住民の信頼を得るために，生徒会や渉外部と協力して対外的な活動をする必要があると思う。 今年の事故の反省を生かし，特に自転車のマナーアップの提唱をした。 今年開始した制服の改善計画を来年度に向け効果的に遂行していく。 本年度開始した自転車保険の加入の促進を継続し，拡大していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻を減少させるため，「遅刻カード」の徹底を浸透させる。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 昨年に継続して，携帯電話の使用モラルの浸透を図る。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の内容を随時プリント等を利用して保護者に報告し，家庭での指導の協力を求める。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 学年と協力し，問題行動があった場合は保護者に来校を促し，学校での状況，指導を十分理解してもらった上で，指導の協力を促す。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭や生徒からの意見を十分検討し，生徒が過ごしやすい学校の体制を整える。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 校外指導の徹底と地域社会との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年より実施した龍ヶ崎小学校との共同のマナーアップキャンペーンを継続し，地域の信頼を高める。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 毎月の登下校指導を充実させ，生徒の登下校でのマナーを向上させる。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民からの声には速やかに対処し，地域の信頼を得る努力をする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 心の教育の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会等の実施により常に相手を思いやる心の育成に努める。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> モラルの向上や規範意識の重要性を理解させる。 				
<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の推進・意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車事故の問題性を提唱し，自転車保険の加入や自転車整備を促す。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> バイク通学規定を再検討し，生徒の現状にあった規程をまとめる。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導の中で，交通安全の重要性を認識させ，ルールを守った生活を定着させる。 			
保健厚生	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化や衛生管理等に関する意識高揚を図るとともに，豊かな心を育てる学習環境の整備を着実に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃分担区のゴミ箱や清掃用具を適性に整備することにより，清掃指導の徹底を期す。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 敷地内の緑化や花壇化を進め，潤いのある学習環境の整備に努力する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ゴミ分別の徹底や，ゴミ，綿埃，枯葉等の散乱防止を心がけさせ，環境美化への意識高揚を目指す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保や危機管理等にかかわる安全教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生委員会との連携のもと，校内設備環境の安全点検を実施し，安全管理に万全を尽くす。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 防災避難訓練を実施し，非常時における対応や安全 	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃や美化に対する意識の啓発に努めているが，今なお十分とは言えない。一方で，生徒・職員の減少に伴い，各清掃分担区の拡大化は不可避である。 豊かな心を培う「緑と花」，清潔な学舎を探求し，今後も環境整備に心血を注ぐ。 壁の崩落やガス臭いの発生もあり，常に安全点検を欠かさず実施する。 避難訓練等をとおり，防災防火防犯等の

	<ul style="list-style-type: none"> 心身とも健康で、明るく活力のある生活を営む態度の育成を目指し、健康教育や学校保健教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対策に関する知識と意識を高める。 学年と連携した保健室運営を展開し、教育相談による心の居場所作りや食育の充実を目指す。 学校保健委員会等とおして、生徒の心身の健康状態を把握し、適切な援助と指導を行う。 インフルエンザに対し適切な対応を行い、校内での流行を未然に防ぐ対策を講じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 危機認識を学校全体で共有していきたい。 心身に問題を抱える生徒に対しては、学年、保護者等との緊密な連携のもと、一層の支援体制の強化を行っていく。 生活リズム確立のため、健康や食育に留意させ、生活習慣や体調を自ら管理できる生徒の育成を期し、工夫改善に努める。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 健全な進路目標設定支援に努める。 進路学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会・講演会・適性検査等を通して意識の高揚を図る。 最新の進路情報を迅速に提供する。 課外授業や模擬試験を充実させる。 小論文対策の充実を図る。 面接指導の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課外授業の趣旨を明確にして、効果的な指導を実施する。 模擬試験の種類と回数を検討し見直す。 小論文指導の強化を図って行きたい。 インターンシップの参加生徒が増加し、内容も充実していた。来年度に生かしたい。 就職希望者の三者面談は、早期実施を含めて検討する。 職場見学は一人一社ではなく、複数見学（2～3）させることを検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職説明会・インターンシップ・会社見学を実施する。 就職試験対策を実施する。 正社員を目指して努力できるようサポートする。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連絡調整に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学・短大・専門学校・企業・ハローワーク等と連絡を密にし、情報の収集に努める。 	B	
図書	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」を実施して自ら学ぶ姿勢を育てるとともに、社会人になった際に必要とされる教養の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」の時間を確保し、一層の充実を図る。 書籍の情報を整理し、学校図書館として適正な図書の充実を図る。 「図書館だより」を発行し、様々な形で図書案内を掲載して生徒の興味関心を喚起する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」の本の選定に苦心する図書委員が多いため、参考リスト等の作成の必要があるため、今後検討する。 新刊を借り出す生徒が増えたので、レファレンスの成果があったと思われる。 図書委員は地区と県の研修会に参加したが、放送委員には同様の集まりがなく、他校の活動内容を知る機会を創出したい。 図書は少ない冊数でも毎月購入した方が生徒の興味を引きやすいので、購入方法を検討したい。
	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの図書委員及び放送委員を、学校行事等の委員会活動に積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員に、朝の読書や高教研図書館部の活動等に積極的に参加させる。 放送委員に、校内放送や学校行事等に積極的に参加させる。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 図書館及び視聴覚設備を充実させ、環境整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書費の適切かつ速やかな執行を行う。 視聴覚施設・設備の整備と充実を図る。 	B	
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の学校行事の内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、芸術鑑賞会を始め行事の企画内容を再検討し、より生徒が意欲的に取り組めるものとする。 文化祭、クラスマッチについては実行委員会を組織し、生徒自らが企画・運営にあたるよう指導・助言する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部役員については、引き続き週一回の定例会をとおして、仕事を計画的に遂行できるように助言指導するとともに、意欲づけを図って行きたい。 今年度は文化祭や予餞会のなかで、新しい企画を実現してきたが、さらに実行委員やクラスを組織的に動かせるよう事前指導をより充実させたい。 部活動においては、バスケットボール部の全国大会出場を筆頭に成果をあげた
	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部の定例会を毎週実施し、指導助言をとおしてリーダーとしての資質の向上をめざす。 文化祭実行委員会総務会を組織し、実行委員会の運営が自ら円滑にできるよう指導・助言する。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介をはじめ、部活への関心を高められるような企画をふやす。 	C	

		<ul style="list-style-type: none"> 顧問を適材適所に配置するとともに、外部講師などの協力体制をさらに整える。 			<p>が、加入率の向上のためには、新入生への働きかけをさらに強化できるような方策が必要であり検討する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会規約の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実情にあうように、規約を検討し改定を進める。 	B		
渉 外	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・学校・地域が協力して行動連携ができるPTA組織をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会への参加者を増やす努力をする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会を始めとした基幹行事について、日程の精選と保護者への連絡体系の確立をさらに図る。 支部活動は支部毎に差があるが、全体的に低調である。支部の必要性も含め、今後も検討していく。 広報誌86号と87号を発刊した。 研修旅行参加者は43名で、昨年より若干増えた。来年度はさらに活性化を図りたい。
		<ul style="list-style-type: none"> マナーアップ運動を始め、諸行事に保護者や地域住民等の参加協力を要請する。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への保護者の参加協力を募る。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 各種PTA大会や研究協議会へ参加する。 支部の在り方について検討する。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会の活性化をめざす。委員会活動を活発にし、PTA活動を広くアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙「PTAだより」を発行する。 祭礼巡視・立哨指導を効果的に実施する。 PTA研修旅行への参加者を増やす。 	B		
カウ ン セ リ ン グ	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスに関する正しい知識や理解について精神医療を含めた情報を定期的に相談室等をおして発信していく。 特別支援教育についての理解が深められるよう研修会をおこなう。 誰でも気軽に相談できる相談室の運営に努める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 相談室便りの積極的な発行に努めたい。 カウンセリング係としての組織体制の充実を図っていききたい。 特別支援教育については、理解を深めるための研修会や事例を交えてのケース会議など、より具体的なサポートシステム作りをしていきたい。 生徒を対象に、「対人関係づくり」や「コミュニケーション能力を育む研修」などを取り入れ、心の健康教育に繋いでいきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 相談活動における校内組織の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱えている生徒の実態把握を行い、関係者との情報交換や情報の共有化を図り、適切な対応ができるようにする。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーの積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーを交えての事例検討会の機会をもち問題を抱えている生徒の課題や問題状況について理解を深め、よりよい指導や援助のあり方を見いだしていく。 	B		
第 1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と個に応じた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への積極的な取り組みを促す。 家庭学習や課外授業へ積極的に参加させる。 各種検定や模擬試験へ真剣に取り組み、目的達成の喜びを味わえるよう援助する。 学習環境を整え、効率的学習を目指す。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲に関しては、全体的に意識は低いと言わざるを得ない。課外やサマーセミナー・模擬試験への参加も特定の生徒に限られる傾向がある。引き続き、基礎学力の向上と授業への積極的な参加を指導したい。 基本的な生活習慣については、幼さが目立ち他者への依存度が高い生徒が多く見受けられる。甘えを捨て、自立した高校生としての生活ができるよう家庭との連携を深めて自覚を促す指導を継続して行っていく。 宿泊学習や竜峰祭など学年、学校行事には積極的に参加できている。しかし、部活動の加入率が低くなっていることは残念である。男子が多い特徴を活かしきれ
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と定着に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服装指導を実施し、高校生としてふさわしい身だしなみを自覚させる。 時間を守り、規則正しく生活させる。 言葉遣いを整え、正しい会話を心掛ける。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の充実と意識の喚起を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの志望や適性について早期に意識させ、目標をもたせるよう工夫する。 面談や情報の提供により、進路選択の契機とする。 	B		
	<ul style="list-style-type: none"> 活力ある学校生活を送るよう、意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やボランティアなどに積極的に参加させる。 男子生徒が多い学年であるため、学年活性化のためその特性を活かすよう工夫する。 	B		

第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と、個々に応じた学習指導・進路指導の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対し真剣かつ積極的な取り組みの姿勢を確立し、基礎学力の完成を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習時間がかなり少ないので、家庭学習の習慣を身につけさせ、自学の姿勢を確立したい。今後も生活面を含め家庭との連携を密にしながら、協力体制を構築していきたい。 来年度も英単語、漢字小テストなどの積み重ね、反復学習をおおして基礎学力の向上を図り、進路実現へとつなげたい。 インターンシップやライフプラン授業を通じて学んだことを通じ、安易な進路選択に流れない指導を進めていく。 発生した事件事故に対して各分掌との連携が取れ、情報交換をすることで迅速な対応ができた。 修学旅行はトラブルもなく、充実した内容で終了することができた。 来年は最高学年としての自覚を持たせ、行事等への積極的な参加を促したい。
		<ul style="list-style-type: none"> 小テスト等の実践をとおし、学習意欲のモチベーションを保てるような機会作りに努める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 平常時や長期休業中の課外の充実と積極的な参加を促す。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 各種検定試験等への積極的受験を促し、目的達成の喜びを味わえるよう援助する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向け、様々な進路行事に目的を持って取り組ませる。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な服装指導・生活指導を実施し、挨拶・身だしなみ等日常的な規範意識の確立を図る。 保護者との連携を大切に、より強い信頼関係と協力体制の構築に努める。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やボランティア等、校内外での活動に積極的に参加を促す。 修学旅行をおおして集団生活のルールや道徳心等を養い、その後の学校生活に生かす。 	B		
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導、学習指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて、成績や知識のさらなるレベルアップを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路については、就職希望者には厳しい求人状況の中、学校推薦希望者(27名)は100%の内定を得ることができた。進学面でも、夏季休業中の課外を含め学習指導、面接指導等生徒の進路希望を実現させることが出来た。 様々な検定試験でも、好結果を残すことができた。それを直接進学に活かすことができた。 一部の生徒を除いては、生活態度や服装面ともに、落ち着いた学校生活を送ることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 本人の意思に基づく進路の決定と援助を行う。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 課外及び検定試験への積極的な参加を促す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席遅刻の数の減少を目指し、家庭との連絡を密にする。 良好な人間関係が保たれるような助言・指導を行う。 学校行事への積極的な参加を促す。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪服装指導の徹底を図る。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 言葉使いをきちんとさせる。 		
<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールを身につけさせる。 				

*評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分